

美しい山形・最上川フォーラム 「美しい水辺づくり功労賞」

美しい山形・最上川フォーラムでは、県民のみなさまの「身近な川や水路の水質が知りたい」という声に応えるため、毎年「身近な川や水辺の健康診断」を実施しています。平成14年度にはじまり、平成23年度で10年目となりました。身近な水辺での活動を通じて水辺の魅力や課題を発見し、大切に守り伝えていくための具体的な取組みにつなげることを目的として継続しています。

平成21年度から引き続き、「身近な川や水辺の健康診断」に継続して参加するとともに、水辺の環境向上へ向けた具体的な活動を実施している団体、環境教育に貢献している参加団体のみなさまを「美しい水辺づくり功労賞」として表彰します。

今後一層の活躍と、美しい水辺を目指す取組みの輪がさらに広がっていくことを期待しています。

《 受賞団体 》

- 県南漁業協同組合（米沢市）
- 子どもの未来を考える会
・東根市立大富小学校科学クラブ（東根市）
- 米沢中央高等学校科学部（米沢市）

（※五十音順）

◇ 県南漁業協同組合

設立年月 : 昭和 32 年 11 月 20 日
組合員数 : 約 1,000 名 (島軒 治夫 代表理事組合長)
水質調査継続年数 : 9 年
継続調査地点 : 最上川上流、羽黒川、鬼面川、大樽川

主な活動紹介

- ～組合漁場監視員が年 4 回一斉巡回パトロールを実施。河川汚濁や不法投棄などの調査とともに、常時密漁防止活動の中で河川環境の保全を推進。
- ～年 1 回、管内行政と関連機関による河川環境対策会議を開催し、河川環境の保全や改善に向け、意見交換や情報交換を実施。
- ～河川工事の際、必要に応じ監視員の立会いを行い汚濁水の抑制を図っている。
- ～啓発活動の一環として、管内の小学生を対象にしたクリーン作戦や、魚のつかみ取り大会、ウグイ稚魚放流体験学習を実施。命の源である水の大切さや外来魚による、生態系の影響について学習と河川の安全利用について指導。
- ～河川における魚類の生息調査。

PR

県南漁協は、米沢市・南陽市・高畠町・川西町の二市二町管内で構成されており、管内の自然豊かな渓流域の多い河川には、多くの釣り人が訪れています。私たち漁協では魚の放流をはじめ、河川環境保全と改善により、自然繁殖の活性化を目指し取り組んでまいります。ぜひ、すばらしい自然の中で釣りを楽しんで下さい。



魚卵放流



啓発活動 稚魚放流



「身近な川や水辺の健康診断」透視度測定のような



魚のつかみ取り大会

◇ 子どもの未来を考える会 ・東根市立大富小学校科学クラブ (※連名受賞)

○子どもの未来を考える会
設立年月：平成13年6月
会員数：2名（奥山欣二会長・
矢野よし事務局員）

○東根市立大富小学校科学クラブ
部員数：19名（齋藤大哉クラブ長・
高嶋康平副クラブ長・顧問
遠藤浩教諭）

水質調査継続年数：6年

継続調査地点：荷口川（上流・中流・下流）、乱川

主な活動紹介

～荷口川の水質調査を、5年前より地元の(社)山形県水質保全協会から調査サポート協力を得て継続実施。地元市民団体と学校が協力し活動を行っている。

～乱川で水生生物調査を実施し、水生生物による水質判定を行っている。

～科学クラブで行った今年度の活動は、べっこう飴づくり・スライムづくり・バブロケット・わたあめ装置づくり・わたあめづくり・ブーメランづくり等。

PR

地域の水環境を子どもたちに知ってもらい、興味を持ってもらうため“子どもの未来を考える会”では、地元専門機関の協力のもと、“大富小学校科学クラブ”へ呼び掛けを行い、水質調査を継続して行っています。

また、大富小学校では、絶滅危惧種に指定されている「イバラトミヨ」を校地内の湧水を使って飼育しています。主に、「グリーンボランティア委員会」の児童が世話を行っています。



水生生物調査



身近な川や水辺の健康診断開始前



雨の中の水質調査



荷口川上流にて

◇ 米沢中央高等学校 科学部

設立年月 : 昭和 44 年 4 月
部員数 : 6 名 (渡部達也部長、顧問佐藤五郎教諭・松井祐太教諭)
水質調査継続年数 : 8 年
継続調査地点 : 松川 (海老ヶ沢大橋・住之江橋)、最上川 (置賜橋)
主な活動紹介

～最上川水系 (本流、支流) の流量および水質の継続的調査。陸路からの定点調査だけではなく、最上川の源流から下流までを連続的に川の水を辿るような線あるいは面的な調査も実施している。

～最上川上流部の河川清掃を、ゴムボートにより水上から行っている。その際に船上から最上川の景観を調査するとともに、河川愛護も呼びかけている。

～県内各地の湖沼および地下水の水質調査。

PR

設立以来、東北地域の河川・湖沼・地下水など陸水の調査研究を行ってきた。測量や水温・水質に関する詳細な調査分析から水収支や各種化学成分の流量など明らかにしている。さらに大学などから持ち込まれた、中国・モンゴル・台湾・ネパールなどの海外の河川水、地下水も分析している。

また、一方でゴムボートを活用しながら、県民の母なる川・最上川の河川清掃を年 2 回実施して 9 年になる。1 回の清掃で大型ゴミ袋 50～70 個のゴミを回収してきた。

来年度は、あと 10 名ほど部員が増えることを願っています。



科学部メンバー



最上川調査



旅館での水質分析



河川清掃